

図書館制度・経営論

科目ナンパリング LIH-205
図書 選択 2単位

中嶋 康

1. 授業の概要(ねらい)

図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。

2. 授業の到達目標

- 1)図書館設置の基盤となる日本国憲法はじめ図書館法、その他各種の法規の意義と内容を理解する。
 - 2)図書館の組織と職員の使命を理解する。
 - 3)図書館を運営する財政と予算編成、マーケティングの実際を修得する。
 - 4)図書館の経営評価について理解する。
- 5)過疎指定地域にある図書館のサービス計画立案を通じ、図書館員に必要な経営的視点と計画立案のためのノウハウを学ぶ。

3. 成績評価の方法および基準

出席態度と授業内の積極的発言(30%)、小レポートまたは課題(30%)、最終レポート(40%)により総合的に評価する。

いかなる理由でも授業回数(15回)のうち5回以上の欠席、および、指定期日までにレポートの未提出者は最終評価の対象から除外する。

4. 教科書・参考文献

教科書

特に指定しない。必読の参考文献、URLはその都度指示する。

参考文献

糸賀雅児、葵袋秀樹編 『図書館制度・経営論』2013(現代図書館情報学シリーズ 2) 樹村房

5. 準備学修の内容

毎週授業の事前準備または復習のための課題を出すので、計画的に取り組み、期限を守り提出すること。「図書館雑誌」、「大学図書館研究」、新聞、Googleニュース等で、図書館の動向を常にチェックしておくこと。

6. その他履修上の注意事項

- 1)第1回目の授業、イントロダクションは、授業の進め方、成績評価方法などについて説明するので必ず出席すること
- 2)指定する文献やウェブサイトは授業前に必ず読むこと
- 3)この科目への履修登録は、インターネットの活用ができること、WORDで文書作成ができること、PCメールでファイルを添付して送信することができるることを最低条件とする。
- 4)適宜グループディスカッションを行うので積極的に参加すること。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション-図書館における制度と経営
授業の目的、進め方、評価法など
- 【第2回】 図書館政策の基礎となる法制度の仕組み
法制度の全体像、図書館法と前提となる法規-日本国憲法、教育基本法、社会教育法 等
- 【第3回】 図書館経営のための関連法規と館種別法規
地方自治法、活字文化振興等関連法規、著作権法等、学校図書館法、国立国会図書館法 等
- 【第4回】 国と地方の図書館政策
国の図書館政策の決定プロセス、審議会と答申、地方公共団体の計画と予算 等
- 【第5回】 地方自治体の図書館政策決定と経営
公共図書館政策の決定プロセス、公共図書館の経営計画 等
- 【第6回】 図書館サービス計画(1)図書館サービスの使命と目標①
経営計画と図書館サービス計画、図書館サービスの使命と目標、ステークホルダーの明確化 等
図書館サービス計画書の作成(1)計画書の構成、図書館の理念
- 【第7回】 図書館サービス計画(2)図書館サービスの使命と目標②
予算と予算管理、図書館職員の配置と専門性、施設・設備の運用 等
図書館サービス計画書の作成(2)図書館の現状と環境の把握①
- 【第8回】 図書館の経営計画(3)経営形態の多様化と図書館サービスの変化
業務委託、指定管理者制度、PFI 等
図書館サービス計画書の作成(3)図書館の現状と環境の把握②
- 【第9回】 図書館の経営計画(4)マーケティングとサービス計画
社会状況の変化に対応したサービス計画の立案
図書館サービス計画書の作成(4)目標の設定
- 【第10回】 図書館の経営計画(5)ヒト・モノ・カネの計画
マーケティング戦略の策定と新事業計画
図書館サービス計画書の作成(5)実行
- 【第11回】 図書館の経営計画(6)マーケティングとブランド戦略
ブランディングとイメージ統合
図書館サービス計画書の作成(6)広報計画の位置づけ
- 【第12回】 図書館の経営計画(7)ブランド戦略と広報計画
経営評価の方法、経営評価とサービス評価
図書館サービス計画書の作成(7)経営評価とPDCAサイクル
- 【第13回】 図書館の経営計画(8)
図書館サービス計画書の作成(8)ラフの完成
- 【第14回】 図書館の経営計画(9)評価と経営計画への反映
図書館サービス計画書の作成(9)最終チェックとリハーサル
- 【第15回】 まとめ これからの図書館制度と経営形態

